

関係各位

山口市長 伊藤 和貴

第 28 回 中 原 中 也 賞 の 発 表

受賞詩集	そだつのをやめる					 撮影：和田信太郎
著者名	あおやぎ なつみ 青柳 菜摘					
出版社	ト オ ア サ t h o a s a	刊行年月日	2022年11月30日			
著者の住所 東京都			出身地 東京都北区			
年齢	32歳	生年月日	平成2（1990）年7月16日			
性別	女	職業	アーティスト	最終学歴	東京藝術大学大学院 映像研究科メディア映像専攻	
《コメント》 詩集としての作品が、緊張感ある議論の場に上がり、このような結果を得られたこと、嬉しく、驚き、たくさん汗をかいています。 わたしはアーティストとして活動するなかで、ビジュアルに表せない言葉の表現というものに苦戦しながらも挑んできました。だからこそ、「一冊の詩集」として表現することは、私にとっておおきな挑戦でもありました。『そだつのをやめる』は、単純に成長しなくなることはありません。過去も、先も見通して、意思をもって「そだつ」を考えなおすことです。 改めて、詩作することに背中を押してくれたみなさま、活動を見守ってくれているみなさま、議論いただいた審査員のみなさま、ありがとうございます。						
《選考経過》 公募、推薦の詩集204点について本年1月に開催された推薦会の検討の結果、^{あおやぎなつみ}青柳菜摘『そだつのをやめる』、^{いざわこうたろう}飯沢耕太郎『完璧な小さな恋人』、^{かんべき}奥間埜乃『黯らかな静寂、すべて一滴の光』、^{ちい}小野絵里華『エリカについて』、^{こいびと}鎌田尚美『持ち重り』、^{おくまののくら}竹中優子『冬が終わるとき』、^{しじま}藤原侖『O』の7冊が選ばれ、本日の選考会の対象とされた。 候補作7点の中で最終的に討議の対象となったのは、竹中優子『冬が終わるとき』、青柳菜摘『そだつのをやめる』の2点だった。 竹中優子詩集は、すでに歌人として優れた業績を残している作者による第一詩集。家族の生態を低い視点から描き、誰をも魅了する詩句が多い。これは短歌で養われた感性とは別に、詩を書くことの経験を独立して作り出しているところから来るものだ。リアルな体験とフィクションのバランスがよく、そのうまさと文学的な安定感は、候補作の中で一番だった。 青柳菜摘詩集は、まったく新しい「時間」の取扱いかたをしている。セミや蝶などの虫の視点から生きものの成長（育ち方）を見る。同時に成長すると見えなくなる成長の過程を、また人間存在そのものを見直そうとしている。本文を読み進めるうちに、見つめている人間がどこにいるかわからなくなる、距離感の無くなる面白さがあって、詩集の中に閉じ込められるような、言葉の迷路の快感に誘われる。その新しさによって、第28回中原中也賞の受賞作に決定した。 選考委員：^{あらかわようじ}荒川洋治、^{いさかようこ}井坂洋子、^{ささきみきろう}佐々木幹郎、^{たかはしげんいちろう}高橋源一郎、^{はちかいみみ}蜂飼耳（50音順・敬称略）						

《山口市長コメント》

第28回中原中也賞が、青柳菜摘さんの詩集『そだつのをやめる』に決定しましたことを、心からお祝い申し上げます。

この度受賞されました青柳菜摘さんが、今回の受賞を契機に尚一層、活躍の場を広げられ、更なる飛躍をされますよう心から御期待申し上げます。今後とも多くの方が、日本の近代詩史に偉大な足跡を残した本市出身の中原中也の業績を顕彰するこの賞をひとつの目標として創作活動に励んでいただければ幸いです。

令和5年2月18日 山口市長 伊藤 和 貴

※受賞者の年齢は、R5.2.18 現在